第1章 概要編

〈本取扱説明書の読み方〉

①本取扱説明書の構成

本取扱説明書は、次の8章から構成されています。

第１章　概要編・・・・・・・ 本取扱説明書の読み方、本機の特徴について説明されています。

第２章　基本操作編・・・・・ 本機を操作するにあたって、これだけ知っていればとりあえず使えるという操作について説明されています。必ずお読み下さい。

第３章　操作編(プロッタ)・・ プロッタに関する操作が、全て説明されています。

第４章　操作編(魚探)・・・・ 魚探に関する操作が全て説明されています。

第５章　操作編(ＧＰＳ)・・・ ＧＰＳまたはＤＧＰＳに関する操作が全て説明されています。

第６章　操作編(魚探ログ)・・ 魚探ログ、リアル魚探再生に関する操作が全て説明されています。

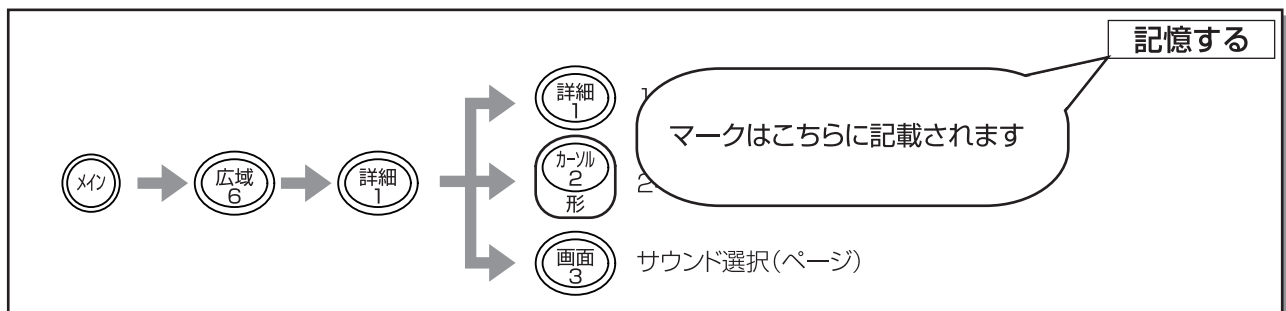
第７章　操作編(その他)・・・ 第2～6章で説明されている項目以外の操作が全て説明されています。

第８章　付録・・・・・・・・ 画面上に表示されるキャラクタの説明表、メニュー項目の一覧表等が書いてあります。

②設定の記憶について

各機能によって、本体の電源をOFFしても設定を記憶している機能と記憶しないで、工場出荷時の状態に戻る機能があります。各機能が、どちらなのかは、操作方法の欄に下記のマークで記載されています。

記憶する 本体の電源をOFFしても設定を記憶していることを意味します。

記憶しない 本体の電源をOFFすると設定を記憶しないで工場出荷時の状態に戻ることを意味します。

③各記号の説明

文中に出てくる記号は、次のような意味です。

〈〉…………………機能の分類を示します。
■…………………各機能の表題の前に付きます。
●…………………機能説明を記述した文の前に付きます。
☆…………………便利な使い方を説明した文の前に付きます。
※…………………すぐ近くの(※)の説明をします。複数ある場合は、※1、※2というように番号で区別されています。

〈本機のおもな特徴〉

高輝度カラー液晶モニタ・・・・ 高輝度の6.5インチＴＦＴカラー液晶パネルを採用しています。

簡単なメニュー操作・・・・・・ **クイックメニュー**により、よく使うメニュー項目を少ない操作で呼び出すことができます。また**ユーザー登録メニュー**により、よく使うメニュー操作を登録しておくこともできます。(18ページ参照)

潮流の方向、速さがわかる・・・ **潮流ガイド**は船が流されている方向をベクトル表示（潮流がガイド線）するので、流し釣りやアンカリングするときに操船が容易になります。(55ページ参照)

注意 **GPSで測位した船の移動方向により、潮流を測定しますので、実際の潮流とは誤差が出る場合があります。**

一度通ったルートを記憶可能・・ **コースガイド**は一度航行したコースを内部メモリに保存して、後から呼び出して地図上に表示することができます。
☆オプションのＣＦデータカード(P-8892)を使用すれば、より多くのコースを記憶しておくことがができます

注意 **実際に航行したコースよりズレを生じる場合があり、コースガイドの通り航行すると、危険区域に進入してしまうこともありますので、コースガイドはあくまでも参考としてお使い下さい。**

見やすくなった魚探画像・・・・ ☆海底より下のエコーの色を変えることによって、海底と魚群の判別がつきやすくなっています。(75ページ参照)
☆魚の反応を点滅させせることにより、魚群の反応が目立って、よりわかりやすくなります。(75ページ参照)
☆海底のラインに白い線を入れることで、海底と根付きの魚の反応の区別が付き易くなっています。(75ページ参照)

見過ごしたポイントに戻れる・・ **リアル魚探再生**の機能を使うと４画面分の魚探のエコーと自船位置を常にメモリに記録しているので、その記録をたどることによって、見過ごしたポイントに戻ることができます。（90ページ参照）
また、**魚探ログ機能**を使うと本体内部に250画面分の魚探のエコーと自船位置を記録しておけるので、航海の後に戻ることもできます。（83～89ページ参照）

表示されている画面を記録・・・ **画面キャプチャ機能**により、画面に表示している画像（静止画）を内部メモリに保存して見ることができます。(91ページ参照)
☆オプションのＣＦデータカード(P-8892)を使用すれば、画像をパソコンで見たり編集したりすることができます

安全のためのアラーム機能・・・ 地図上の表示物(浅瀬、危険物、航路など他)を遠距離から検知し、表示と音でお知らせして、海難事故から未然に防ぐための機能などがあります。(46～48ページ参照)
☆オプションの音声ガイドユニット(VG-04-07)を接続することによって、音声でお知らせすることができます。

簡単な画面切替・・・・・・・・ プロッタ／魚探画面、魚探画面、プロッタ画面、潮汐グラフの画面を専用キーで、切り替えることができます。(10～11ページ参照)

魚探はフルオートで使用可能・・ オートレンジ、オートゲイン機能により魚探はフルオートで使用できるので、わずらわしい操作をしなくてもとりあえず魚探を使用することができます。またベテランの方にも満足していただけるマニュアル操作も可能です。(26、65、67ページ参照)